

第6学年 外国語科学習指導案

令和4年6月29日(水)

5校時 13時30分～14時15分

6年3組 28名

指導者 河島 望来 (HRT)

中村 由美子 (JTE)

1 単元名

APUの学生と仲良くなるために、好きな国やよさを言えるようになるろう！

(教材名 NEW HORIZON Elementary 6 Unit3 「Let's go to Italy.」)

2 単元について

(1) 児童について

児童は、Unit1では新しいクラスメイトに自己紹介スピーチをすることを目指し、スモールトークでたくさんやりとりを通して、スピーチに向けて表現を磨いた。Unit2では、下南小学校の友だちが自己紹介動画を送ってくれたことをきっかけに、他校の友だちに自己紹介するときは、どのような内容がよいか話し合い、住んでいるところや普段することなど、相手に合わせて内容を検討し自己紹介動画を送る活動を通して、自分について簡単な表現を用いて話すことに自信をつけてきている。

本校は、昨年度実施した英検ESGの結果では、スピーキングとライティングの平均スコアは、約94%得点できていた。一方、リスニングの平均スコアは、72%、リーディングの平均スコアは77%と8割に満たなかった。特に、リスニングについては、20%の児童が5割に達しておらず、指導に課題があることがわかった。

また、昨年度末に実施したアンケートの結果、89.9%の児童が「外国語の学習が楽しい」と答えている。一方、否定的な回答をした児童の理由として、「単語がわからない(すぐに忘れてしまう)」「先生や友だちの英語はわかるけど、外国の人の発音になると聞き取れない」「聞き取れないのが不安で自分から話しかけにくい」などの理由があった。授業においても、単元冒頭の「Starting out」のまとまった英語を聞き取る活動では、苦手意識が高い傾向にある。

以上のような実態から、自分の考えや思いを伝えたいと思っているが、「聞くこと」への不安や苦手意識から、コミュニケーションや学習に対しての意欲が低下してしまう傾向があるといえる。

(2) 教材について

本教材は、世界の国々の色々な国の観光地や食べ物、お土産品などを扱い、世界の魅力を発見したり、世界の文化に対する理解を深めたりすることが期待できる教材である。また、海外旅行に行ったことのある児童が少ないことから、行きたい国を選ぶための様々な国の情報を集める場面では、目的をもって聞く必然性を高めることにつながる。自分が行きたい国を紹介するという目的をもち、自分自身の興味・関心とつなげながら聞くことで思考力・判断力を養うことができ、語彙や表現の幅も広げられると考える。

助動詞canを使って、You can see～. You can buy～. などとその国でできることを表現したり、様子や味を表す言葉を使ったりしながら、自分の考えや気持ちを表現する活動が期待できる。

また、話すこと(やり取り)の場面では、色々な国の情報を共有したうえで、だれが何を選んだか、その理由を伝え合うことで互いの好みや感じ方について理解し合う言語活動が期待できる。

(3) 指導について

児童は、Unit1,2において、相手に応じて内容を変えながら、自己紹介を軸に表現を磨いてきた。そこで、1学期最後の「Check Your Steps① 外国の人にメッセージを伝えよう」まで見通して、外国の人と仲良くなるためには、どのような自己紹介をしたらよいかという視点をもって、今回の学習に出会わせる。

導入では、APUの学生とのオンライン交流を計画していることから、APUの紹介やクイズをおこなった。その上で、APUの学生にはどんな自己紹介をしたらよいかと問い、児童は、互いの国のことを

知っていると話のきっかけになり仲良くなれることに気付き、色々な国について知りたいという意欲を高めていった。そこで、自己紹介に「行ってみたい国やその理由」を付け加え、外国の人向けの自己紹介をすることを学習のゴールに設定した。

「聞くこと」の活動では、苦手意識をもっている児童がいることから、初めはHRTやJTE、児童と関わりのある先生の行きたい国について、ゆっくり短い文で聞き取れるように段階的に指導を行う。2時では、聞くことの技能として、〈see〉〈eat〉〈visit〉〈buy〉のキーワードと画像の情報をつなぎながら、わからない言葉を推測しながら聞くことをつかませていく。そして本時では、その技能を使いながら聞いたり、「Do you want to go to ○○?」「Why?」とやり取りをしたりしながら、聞き取りにくかった英語を教えるのではなく、文脈の中で捉える経験をさせていきたい。また、自分の行きたい国を見つけるという目的を軸に聞き取ることで、自分の好みや興味に照らし合わせて聞く経験をするのが、「聞き方」の技能を向上させるのではないかという仮説をもとに授業を計画した。

後半は、「市浜ツアーズ」という旅行代理店の設定で、色々な国の紹介をツアー会社の社員になったつもりでやりとりをする活動を通して、表現に慣れ親しませていく。そして、最後の自己紹介につながるように、自分の一押しの見どころについては、「It's beautiful.」等、2時からたくさんインプットしてきた表現を、場面に応じて使い分けていくことができるよう、段階的に指導していく。

以上のような指導を通して、本校のCan-doリスト形式による学習到達目標の「先生や友だちの行きたい国やその理由について短い話を聞いて概要を捉えることができる力」と「友だちや先生と、世界の国や地域について紹介し合ったり、質問したり答えたりすることができる力」を付けるようにしたい。

3 単元の目標

APUの学生との交流で、相手のことを理解したり自分のことを伝えたりするために、世界の国や地域とその見所について、短い話を聞いてその概要を捉え、理解することができるようにするとともに、自分が行きたい国やその理由について、自分の気持ちや考えなどを友だちと伝え合うことができるようにする。

4 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。
話すこと [やり取り]	イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p><知識> ～is …、You can …、It's …、～、およびその関連語句について理解している。</p> <p><技能> 世界の国々の見所やその国でできることについて、聞き取る技能を身に付けている。</p>	<p>APUの学生との交流で、相手のことを理解するために、世界の国や地域とその見所について、短い話の概要を聞き取っている。</p>	<p>APUの学生との交流で相手のことを理解するために、世界の国や地域とその見所について短い話の概要を聞き取ろうとしている。</p>
話すこと [やり取り]	<p><知識>～is …、You can …、～、It's …、～、およびその関連語句について理解している。</p> <p><技能> 自分が行きたい国やその理由について、～is…、I can…、It's …、等を用いて、考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。</p>	<p>APUの学生との交流で、相手のことを理解したり自分のことを伝えたりするために、自分が行きたい国やその理由について、自分の気持ちや考えなどを友だちと伝え合っている。</p>	<p>APUの学生との交流で、相手のことを理解したり自分のことを伝えたりするために、自分が行きたい国やその理由について、自分の気持ちや考えなどを伝え合おうとしている。</p>

6 指導と評価の計画（単元指導計画）（全8時間）

◎指導に生かす評価 ○記録に残す評価

時	目標と主な活動	評価		
		知	思	主
1	「世界魅力発見！世界クイズに挑戦しよう！」 立命館アジア太平洋大学（APU）や世界の色々な国のクイズをすることを通して、世界の国の文化に興味をもったり、学習のゴールと今後の学習の見通しをもったりすることができる。	○		
2	「色々な人の国の紹介を聞いて、自分の行ってみたい国を見付けよう①」 身近な人のおすすめの国や、有名な建物・食べ物などについてのやりとりを聞いて、「see」や「eat」などの動きを表す言葉や映像を手掛かりに、話の概要を聞き取ることができる。	○		
3 本時	「色々な人のおすすめの国を聞いて、自分の行ってみたい国を見付けよう②」 身近な人のおすすめの国や、有名な建物・食べ物などについて聞き取った情報をもとに、自分の行きたい国を選ぶことができる。	◎	◎	
4	「市浜ツアーズへようこそ！色々な国のみどころを伝え合おう。」 旅行代理店になって、パンフレットの情報に書かれた色々な国の建物や食べ物などについて紹介することができる。	○		
5	「市浜ツアーズへようこそ！色々な国のみどころを、気持ちをこめて伝え合おう。」 旅行代理店になって、パンフレットの中で自分が一番おすすめしたいところについて、「It 's ～.」の表現を用いて、自分の気持ちを添えて伝えることができる。		○	
6 ・ 7	「自分の行ってみたい国やその理由について伝え合おう」 自分の行ってみたい国やその理由について、「わたしのせりふ」を参考に、自分の気持ちを書くことができる。また、必要に応じて適切な資料を添えて、伝え合うことができる。		◎	◎
8	【Check your step①】 行ってみたい国やその理由を付け加えて、クリス先生に自己紹介をしよう。（APUの学生との交流は1学期ではないため、クリス先生に伝えて、アドバイスをもらう）	◎	◎	◎

7 本時の指導（3/8）

(1) 題目 色々な人のおすすめの国を聞いて、自分の行ってみたい国を見付けよう！

(2) 本時のねらい

世界の国々の紹介や身近な人の行きたい国について、クリス先生による様々な国の紹介などを聞き、〈see〉〈eat〉〈buy〉〈visit〉等の動作を表す語を手掛かりに自分の行きたい国を考える活動を通して、短い話の概要を捉えることができるようにする。

(3) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	備考・評価
4	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 3 Question (天気・曜日・日付) <p>【アルファベットタイム】 国旗クイズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友だちや先生に挨拶をし、話をしやすい雰囲気づくりをする。 天気や日付・曜日を確認する。 国名のはじめのアルファベットの音を聞かせ、どの国の名前を言おうとしたかを当てさせる。 	ワークシート
5	<p>【マッチングゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様子を表す言葉を発音し振り返る。 教師が出したお題にぴったり合う単語を選んで友だちと見せ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> はじめは、アニメキャラクターを出し、後半は前時に扱った国について出すことで、互いの考えを交流し、本時のめあてにつなげていく。 ◎概念が捉えにくい言葉は、使いながら意味がつかめるようにする。 	ロイロノート
3	<p>【Small Talk】</p> <p>Where do you want to go?</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時のワークシートをみながら、どこの国を選んだかを交流し、本時はどんな国がでてくるか期待させる。 	デジタル教材
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">色々な国の紹介を聞いて、行ってみたい国を見付けよう！</div>			
20	<p>【Activity 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> クリス先生による国紹介を聞き取る。 「Starting out」のデジタル教材の国紹介を聞き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎seeが観光地、eatが食べ物、buyがお土産の話をしていることを捉えられるように、HRTとJTEでやり取りをして、黒板に絵カードをはり、聞きとりのポイントを示す。 クリス先生の動画は、内容が短くゆっくり話してもらい、だんだん量が増えていくようにする。 「どんなことがわかったか」と問い、一人一人が分かったことをつなげたり、わからない単語を推測したりして内容を理解できるようにする。 	板書・デジタル教材 絵カード
10	<p>【Activity 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞き取った内容をもとに、自分が行ってみたいと思った国を選び、その国名を書き写す。また、その理由をワークシートに書き、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎聞き取った内容について、理由を書きやすいよう、板書に見どころを整理しておく。 「Where do you want to go?」と教師が尋ね、単語や日本語で答えた場合は、リキャストしながら、次時の活動につながるようにする。 友だちの発表を聞く際は、全員が文脈にあった反応の言葉を使うように声をかける。 	先生や友だちとのやり取りを手掛かりに、聞き取ったことをもとに、自分が行ってみたい国を選んでいる。(ワークシート)
3	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返る。振り返りシートに記入する。 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあての振り返りや次につながる自分の課題について書くよう促す。 挨拶をする。 	ワークシートの振り返り